

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	木場 紗綾 准教授
開 講 期 間	後期 (9/25~2/9)	開講曜日・時間	木曜3限 (12:45~14:15)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)
授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標			
授 業 概 要	比較政治学(Comparative Politics)は、世界各国の国内政治を分析対象とし、「なぜ」という疑問をもとに、原因を推論する学問である。後期のテーマは「モデルを失う民主主義」である。20世紀以降の民主主義をめぐる議論(ソーシャル・キャピタル論、選挙や政党などの制度に着目する議論、そして、市民社会や社会運動の構造分析、近年の排外主義の台頭)を議論する。前期「比較政治1」では、開発途上国が民主化を達成できない理由を考察した。しかし、西側民主主義諸国の民主主義もまた、揺らいでいる。民主主義は社会の分断にどう対応できるのだろうか。本科目は、先進国・途上国の差異、あるいは、民主主義国・権威主義国の差異を超えた比較の視野を提供する。		
授 業 時 間 学 習 以 外 の 学 習 (準 備 学 習 含 む)	レポートには早め着手し、まず、問いを定めること。文献や資料に、精力的に目を通すこと。アカデミック・ライティングのマナーを身に着けることは前提とする。		
授 業 計 画	1	イントロダクション：比較政治とは何か	
	2	寄付をとボランティアをめぐる研究	
	3	国防意識の国際比較と徴兵制度	
	4	ソーシャル・キャピタル	
	5	社会運動①	
	6	社会運動②	
	7	国家とNGO①	
	8	国家とNGO②	
	9	ローカル・ガバナンスとNGO	
	10	政治参加の度合いと政治的有効性感覚	
	11	排外主義①	
	12	排外主義②	
	13	レポート執筆に向けて①	
	14	レポート執筆に向けて②	
	15	総括	

<p>評 価 方 法</p>	<p>期末レポートで 100%評価する。出欠は確認しないが、期末レポートは「比較政治」の考え方を理解しているかを確認するものであるから、授業を聴いて理解していない学生には上記レポートの執筆は困難であると思われる。レポート論題や字数、締め切り、評価基準などは、第1回の授業時に提示するが、おおむね次のようなものを想定している。</p> <p>-----</p> <p>①以下から1つ以上の概念を選び、②先行研究を引用しつつその概念を定義し、③操作化された客観的な測定指標を1つ以上提示し、④そのテーマについて一見不可思議な「パズル」である「なぜ」または「どの条件が」(why または what makes…)」で始まる問いを立て、⑤その「問い」に答えようと試みている先行研究(アカデミックな書籍や論文、信頼に足る専門家の論考、シンクタンクの論説記事、大手新聞社の論稿など)を2点以上引用して論述せよ。なお、2つ以上の国や地域を選択する必要はなく、1つの国や地域について論じて構わない。本科目の重点は「比較する」ことではなく「原因を推論する」ことにある。</p> <p>【概念の選択肢：寄付、ボランティア、ソーシャル・キャピタル、政治参加(ただし、投票率以外)、政党、利益団体、NGO、社会運動、社会的企業、排外主義、徴兵制、世界価値観調査】</p> <p>図表や参考文献リスト、脚注を含まず 3,000-5,000 字程度。執筆者自身の主張は不要。アカデミック・ライティングのルールを踏まえ、先行研究を丁寧に引用すること。レポートを提出したからといって単位が取得できるわけではない。レポート提出の条件として、12月から1月にかけて、複数回、授業内および補講によって実施する「中間報告会」に必ず参加し、「レポートの問い(③)と先行研究(⑤)について1-2分で担当教員に対して個別に報告を行い、フィードバックと「提出許可」を得ること。中間報告会の日程は後日 GAIDAIPASS で周知する。また、対面およびオンラインの併用で実施する。時間内に指導できなかった場合はメールなどによる後日のフィードバックを行うが、事前の連絡なく授業に参加しなかった学生からのメールのみによる相談は受け付けない。正当な理由なく提出許可を得ないまま提出されたレポートは採点しない。</p>
<p>教 科 書</p>	
<p>参 考 図 書</p>	
<p>特 記 事 項</p>	<p>講義では、日本の政治・社会にも言及するし、途上国に対する国際協力、開発援助、人道支援、安全保障といった国際政治のテーマにも言及する。とりわけ、国際協力論(援助論)や NGO、ボランティアに関する先行研究や実践について多く言及するので、そうしたテーマに関心を持つ学生の参加を歓迎する。政治学に関する基礎知識の有無は問わないので、ぜひ、幅広い層の学生に受講してもらいたい。</p>